

二度繰り返し、三度目に海水の中に身を沈めた時に、静寂を破る大クシャミ。

結果的には、通行中の若者二人に助け上げられた無法松六十七才の不本意な冬の一夜だった。

つづく。

囲碁とお酒

上田 喜久雄

① 天ヶ瀬温泉で再燃

全国の紅葉が錦絵となり、日本酒の旨い季節となった。

3日には、山口の錦帯橋から安芸の宮島まで、家族で小さな旅をして来たが、16日から17日にかけては耶馬溪から阿蘇に抜け、紅葉を楽しむ予定である。

昨年は中学校のクラス会で天ヶ瀬温泉を訪ね、久しぶりの旧交をあたためた。

宴会が終わり、それぞれ部屋に帰ったが、先生と同室となり何かの拍子に碁を打つことになった。確か、打ち終わった時には午前2時をまわっていたように思う。

酒も入っており、とても楽しい碁となったが、内容は激戦、旅行から帰ると先生から碁のお誘いがあった。

その時から、碁熱が再燃し今に至っている。

今号より数回にわたり、「囲碁とお酒」について思いつくまま語ってみたい。

どきっとする話

白石 傳

その昔、1000KLの重油貯槽を設計・製作・現地組立工事の担当をしたことがある。直径11.5m、高さ12m、石油コンビナートでは小さいサイズの貯槽である。約50年前のことである。しかし、わが社は、このような大型貯槽の設計・製作の経験者は殆どいなかった。しかも自分は機械設計が主な仕事であった。ベルト・チェン・スクリー等コンベヤーや天井走行クレーンの設計が中心であった。

ある日、突然、新潟県の直江津事業所出張を言い渡された。その時直江津事業所はアルミニウムの製錬工場の建設に全力を挙げていた。従業員200名の中に若干22歳の経験の浅い設計担当者が一人で放り込まれるのである。折尾駅から夜行急行で名古屋まで行き、中央本線・信越本線に乗継ぎ、直江津駅まで23時間、何かの時、ちょっと上司に教えを願うと言う訳にはいかない。大型工事を建設するとき突発的に新たな付帯設備を追加することはよくある。特にアルミニウムの製錬技術は100%欧米の指導に頼っていた。大型

ディーゼル発電機 20 基からなる発電所、ボーキサイトを電気分解しアルミニウムを精製する電解工場、鋳造工場、副原料工場等の主要設備は専門メーカーが担当し、現地業者は付帯設備と突発的に発生する工事に対応するどんな仕事でも対応しなければと、種々のことを想定し、みかん箱に入るだけの資料を持参した。その中にアメリカの石油規格の書籍を一冊忍び込ませていた。英文を訳しながら、鉄板の厚さ決め、溶接部の開先形状、底板の重ね方法等の検討を行った。同時に現場担当者と施行方法の検討、組立用専用治具の設計を終わったころ本社の係長から設計図の説明をせよとの連絡が入った。係長はかなり詳細なことまで質問し、かなり長電話になっていた。突然、背後から事務課長の大声が、出張費出すから、電話をきれ！と。当時の事務予算のうち、電話代は特に厳しかった。

いろいろあったが、異変は貯槽完成約 2 ヶ月後に起った。新潟地震である。直江津で震度 5 ずいぶん揺れた。地震後の点検で 2 基とも地面より 1 m 沈下していることが分かった。その後、重油を抜いて測定したら中央部は更に 1 m の沈下が確認された。

新潟市の昭和石油(株)では火災が発生していた。貯槽の溶接部が破壊し、漏れた石油に引火し火災が発生したものである。地震の 10 日後、信濃川河口から工場を見たとき、上空まで続く黒煙があった。

1000 K L の貯槽は民家からわずか 200m、事件になっていたら自分の設計人生は終わっていたかも。

また、この数年後、水島コンビナートで貯槽の底部が破損し、石油が瀬戸内海に流出し、回収のため数百億の費用と海水の浄化に数年かかった事故も起きた。

前置きが長くなったが、東京電力(株)福島第一発電所の 450 K L の汚染水貯槽、フランジボルト式でなく、一刻も早く溶接タイプに変更すべきである。

おいしいビール

角打ちのピアニスト 谷口淑子

音楽大学を、逃げるようになんとか卒業し、大すきだった音楽に嫌気がさした。私が、いわゆるひきこもりのような、ぷ〜太郎のような状態で 4 歳からずっと弾き続けてきたピアノのふたを開けられない日々を送っていたころの話。

浮かないわたしは、親友の恵子とロックバンド？、たしか二人組だった気がするが「トキオ&マコトーズ」という地元の？アーティストのライブに出かけた。どこかでチラシをみつけてたまたまだったと思う。夜遅くなり、ロクに働きもしなくせに夜遊びか！の娘に怒った母は、執拗に携帯を鳴らしてきた。(今でも 携帯鳴らす率 NO. 1 の母だが・・・)でも、わたしはその小さなライブ会場から出ることが出来なかった。ほぼクラシック音楽の世界しか知らない当時のわたしには、ギターをかき鳴らしからだいっぱい音楽を楽しみ、からだいっぱい表現しているかのようにみえる、トキオ&マコトーズの二人から目を離すことができなかった。

その時、たしかトキオくんの方だと思うが、汗びっしょりの顔で「この最高のライブが終わったあとの、ビールが最高においしくて、そのおいしいビールのためにやってんだ」みたいなことを言った。衝撃だった。美味しいビールのための音楽って、そんなにシンプルで正直なそのかんじ。

そのビールの味、ほんとうにおいしんだろうな・・・いいなあ・・・わたしもそんなおいしいビールを飲みたいな。そんなふうに音楽したいな、していんだな・・・

わたしは たくさんお酒を呑める体質でもなければ、今はまだ、お酒を呑みに出かける時間をたくさんとることも出来ないぺ～ぺ～だ。

でも、今のわたしは、あの時のトキオくんのようなおいしいビールを呑みたいために毎日がある。

いつか、あのときのトキオくんみたいに、「おいし～～」って、ころからいえるそんな、おいしいビールを呑むんだ。

まだまだ道半ば。

いつもありがとうございます！

海鮮居酒屋はじめの一步：女将

お元気ですか～～？

今年は台風が多いですね。

皆様ご無事でお過ごしですか～～？

まずはコマーシャル！

おとりよせ一歩鍋2割引！

11月30日まで！

http://www.hajimenoippo.org/hajimenoippo_006.htm

はじめの一步とスナックアンナでは忘年会のご予約をお待ち致しております！

今年もどうぞよろしく願いいたします！

秋になり、我らが軟式野球チーム「アンナーズ」もリーグの最終戦が終わりました。

今年のアンナーズは一言で言うと・・・

・・・弱かった(*_*)・・・ガクッ

5年やってますけど、だんだん人の集まりが悪くなってきて・・・「(´～`;)」

後半戦は助っ人を頼みまくりの試合でした・・・

その日の試合もギリギリの人数をやっと確保して安心していました。

雁の巣で11時からの試合でした。

秋晴れのとっても気持ちがいい野球日和の日+ (人*´▽`)

当然みんな一時間前に集合。

H君まだやね。そのうち来るやろ……

車混んでるしね。

で、……いよいよおかしいと思ったのが試合20分前……

H君来ない！！

やばい！！Σ(□□;))

早く電話電話！！

なんとH君は11時の試合を13時と勘違いしていたのでした……

H君「すみません！すぐにでます！」

あ〜〜〜もっと早く電話するべきだった(˘˘;))

どうするよ……不戦敗は罰金よ……

彼の家は……雁の巣からはそんなに遠くない……

しかし……あと10分や15分で着くものなのか……

焦るみんなの前で監督、無言でユニフォーム一式を私に差し出した……

「(一△一;) エッ、マジ?!!! ……無理無理……」と思ったけど
とりあえず試合を始める時点で人数そろってないと不戦敗だもんね。

「わかったよ着るよ(−−;))

ブカブカのユニフォームを着て

「早くH君来てくれよ〜〜〜」

と願いました。

私はいつもスコアをつけたり球場をとったりといった仕事をさせていただいているので
すが野球は見るのは好きでもやったことは(∩ノ・∨・)`)ナイナイ……

きょうの試合は先攻。

H君の打順は7番。守備はライト。

つまり私に7番ライトやれってことデスヨネ……! Σ(×_×;))!

……H君そのうち来るやろ……

しかし万が一打席に立ったり守ったりしなければならなくなったら……

ううう……あ〜〜〜〜怖い！！

ボールが怖い！ バットが怖い！ そしてなにより日焼けが怖い！ギャア————(艸
∩
<11)————アア!!

……試合が始まりました……

一番バッターから打席に立つ……

いつもは「打てよ〜〜〜!!!」と思うところ、この日は……

粘れ粘れよ〜〜〜

時間を稼げよ〜〜〜

フォアボールとヒットで2点いただいてノーアウトのまま……

……もう6番?

いやいや無理って！

遊びでバッターボックスに立ったことしかないのに……

早よ来て〜〜〜H君！！(H° □°)H カモン

6番バッター、センターフライでタッチアップ！

3点目入った〜〜！！わ〜〜〜い！！って……

……次やん…… 11111(-ω-;)11111 ガーン…

観念してバッターボックスへ……

相手のピッチャー、おばさんだからって容赦ないよね……

そりゃそうよね……(; 3)

まあ、監督は「立ってりゃいいから」っていうけど……

それがウチのリーグにうまい女性が一人いるのよ。

もちろん20代だろうけど……

そんな人がいるからいかんよね〜〜

などと考えてると、ボール投げられた！！〜〜〜ぎゃ〜〜〜〜〜=(; ° ロ°)！！！！

1球目はボール……容赦ない内角攻め！！(TωT)

ベンチから見てるよりすんごく早く感じる……

ブカブカのユニフォーム着たおばちゃん相手に

そんな思いっきり投げんでもいいやん……。°。(/ ㄩ `)。°。うわああああん

「振らんとあたらんぞ〜〜〜い！！」

ケッ、誰じゃい！やじりやがって……。°(* 3')9 ムッキーーッ！！

振って万が一当たったらケガするだろうが！！

結局、私が人数あわせのバット振る気もないバッターだとわかったらしく

予定通り見逃し三振でアウト。

あ〜〜〜よかった！

デッドボールもなく……とりあえず役目は果たせたよ……

でもサ……守りはカンベンカンベン……(-。-;))

何やってんだ……??H君は？遅いやん！！！！

まさか球場間違えてないよね……

次は8番。監督の打順。

打て〜〜〜打ってくれ〜〜！！

だ〜〜〜！ファーストゴロか〜〜〜

ヤバイ……チェンジやん！！ハア…(|| | ` ㄩ `)=3

ライトに行く……

おーここから見る野球もいいもんだ！

広がる青空！！気持ちいいのお (◎° ▽° ◎)

あとは打たれんようにピッチャーガンバレー！！

三振三つでおしまいにしてくれ〜〜

少なくともライトにだけは打たせないでくれ~~~~(●≧∩≦)タノムゾ！！
フォアボールと内野安打で迎えた4番がレフトへヒット打ちやがった~~!(°ロ°)ギ
ヨエ

1点入ったやないの！！

そして次のバッターがとうとう恐れていたライト方向にか~~~~んと一発・・・おお(°ロ°)巾

あ〜あ〜も~~~~

追っかける追っかける $\varepsilon = \varepsilon = \varepsilon = \Gamma(^{\circ} \text{ロ}^{\circ} ;)$ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ!!

ボール拾ってセンターにパス! (ゝ>ω<)ノ〰●オリヤッ

センター、サードに投げる、

セーフッ！！

3塁打やん・・・

2点入って3対3・・・

そこでやっとうちから走ってくるH君発見！！

お~~~~やっとうち来たか~~~~！！

これで私の野球デビューはおしまい。

あ~~~~緊張した！

結局この日の試合は6対5で勝ちました！

しかしH君遅かったよね。

なぬ？

捕まってた？警察に・・・？

どれどれ・・・あ、青い紙。罰金やね・・・

曲がったところが右折禁止？あらそう(・c_・`)・・・

そこに運悪くパトカーね・・・

そう・・・だから遅かったのね。

彼にこの言葉を贈ります・・・

「急がば回れ・・・左に曲がれ」 d(´・▽・`)

で、もう一回コマーシャル

おとりよせ一歩鍋2割引！

11月30日まで！

http://www.hajimenoippo.org/hajimenoippo_006.htm

忘年会のご予約はお早めに！

海鮮居酒屋はじめの一步

〒812-0011福岡市博多区博多駅前3丁目7-15

0120-343-914

092-471-1850

スナックアンナ

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目7-15

092-471-3923

ホームページ <http://www.hajimenoippo.org>

メールアドレス ippo@eos.ocn.ne.jp

メルマガ <http://www.mag2.com/m/0000205017.html>

カクテル

櫻木 大祐

明日も仕事だというのに、まともや調子にのって深酒をしてしまった。
午前2時、帰宅。猛烈な尿意におそわれる。
放尿、そして水洗レバーをひねる。と、増える水かさ、上がる水位。少し慌てる。
すんでのところでは決壊は免れ、「どうするよ…」と呟く。
そうだ、コンビニに行って何かしら薬剤を探そう。
コンビニの洗剤・掃除用品コーナーに、パイプの中を綺麗にする薬剤を発見。購入。
部屋に戻り、便器に薬剤をぶちこむ。白く泡立つ水面。
どのくらい放置すれば良いのだろうか？箱の表示によると…40分以上らしい。
そうだ、DVDでも観ながら時間を潰すことにするか…。
しかし、冒頭の新作情報も見終わらないうちに意識は薄れていった。

翌朝、二日酔いで目が覚めた。携帯の時計は結構なギリギリを表示している。勢いよく
上体を起こすと、軽い吐き気が襲う。便所に走り少量の胃液を吐く。水を流すと水かさが
増し、昨日のことを思い出した。薬剤が足りなかったのかしら…
服をちゃちゃっと着て、便器に薬剤を追加投入し家を出る。

午前中には酒も抜け、いつもどおりに仕事をし、業後はいつものように飲みを繰り出す。
ある程度酔いが回って二軒目の勘定を済ませた時に、脳内をかすめる一連の映像。上がる
水位、白い薬剤、朝の嘔吐。そして…そして、「まぜるな危険!!」の表示。

あ…まぜてんじゃん…有毒ガス…出ちゃってんのかな……
よし…部屋に戻るの、もうちょい待〜とう♪

現実逃避の三軒目で、翌日の二日酔いが確定した。
ちなみに有毒ガスはどうやら発生していなかったようで、隣人も僕もいつもと変わらぬ
日常を続けている。

二度と酒は飲みません

鯨飲酔公

前回書いた俳優中村伸郎と同様、小津安二郎監督と黒澤明監督の両巨匠の作品に多数起用され、燦し銀の演技で僅かな出番ながら強烈な印象を残した名バイプレーヤーに三井弘次という俳優がいました。

ロシアの文豪ゴーリキーの戯曲を江戸時代の貧乏長屋に置き換えた黒澤作品「どん底」ではすこぶる知的な役回りのサーチン役（舞台では芥川比呂志、仲代達矢等が演じた）を庶民的な風貌の彼が演じるなんて余人には考え付かないキャスティングで、黒澤監督の慧眼も見事でしたが、三井さんはこの役で同年の助演男優賞を総なめするという名誉を得ました。

ただ、この人の悪い癖はお酒。気の小さい人だったようで一杯ひっかけないと仕事に入れない。セットに入る時点で、へべれけなんて事はしょっちゅう。在籍していた松竹のプロデューサー達は使うまいと思うものの、彼の芝居と存在感の魅力抗し難く、「やっぱり三井に頼むか」となってしまう訳です。もともと、小津監督の時はほどほどにしていたようですが、当人はそのつもりでも周りにはたまったもんじゃありません。見かねた小津監督から呼び出しを受け、「俺も酒は大好きだけど、酒に飲まれる奴は嫌いだ」とお小言。そんな時の三井さんは神妙に「二度と酒は飲みません」と言い切ってしまうのですが、翌日の現場ではそんな事すっかり忘れてへべれけの態。その上、彼のもうひとつの悪癖であるスタッフ・共演者への毒舌が始まるものだからどうしようもない。小津組の打ち合わせで売れっ子の脇役で売り出し中の某俳優が大遅刻。鶴田浩二が小津監督を待たただけで大問題になった頃だからその俳優さん、汗を拭きながら「申し訳ありません」とやったところに三井さん、「おいっ、××よ。××（某女優）にうつされた淋病、もう治ったか」とブチかます訳です。

映画やテレビといった映像なら酔っ払ってもなんとか誤魔化しは利くでしょうが、大勢の観客を前にする舞台ならどうなるのか。東宝の芸術座から依頼を受けて初めて舞台に立ったとき、歌舞伎俳優の市川中車（先代）が「こんな巧い俳優がいるのか！」と吃驚したそうですが、例によって一杯きめてこない芝居が出来ない。その舞台ではちゃんと立ってられないから張物（舞台上のセットの壁とか）に寄りかかる。倒れては舞台が台無しになるからと、裏で大道具のスタッフが総出で支える結果に。翌年も芸術座に呼ばれ、同僚俳優が陣中見舞いに一升瓶提げて来ると、「冗談じゃない」とプロデューサーに取り上げられてしまったそうです。この公演も酒びたりの毎日で、共演女優がプロデューサーに「二度と東宝の舞台に出してくれるな」と直訴する始末でした。

先述した「どん底」の黒澤監督も三井さんがお気に入りの様で、役者の芝居に人一倍うるさい黒澤氏が彼には何も注文を付けなかったそうです。三井さんもそれに応えて一発でオーケーを貰っていたとの事で、「黒澤？ 俺は嫌いだね。写りもしないトランクの中身を詰めるなんて言いやがって」なんて言いつつも高い評価を得て、プレゼントに高価な腕時計を貰ったことを誇りに思っていたそうです。その黒澤氏が自殺未遂の事件を起こしたとき、テレビのモーニングショーに出演中でその一報が入ると、三井さんは生放送中にも

かかわらず大号泣。また、若手の頃からの付き合いで不遇な立場の俳優を使う様にプロデューサーに懇願するなど、氏の酒乱は優しい人柄の照れ隠しだったのかもしれませんが。

酒はやめないほうがよい

蘇宅 韓五郎

先月末に、2泊3日で吉本先生と「鹿児島焼酎三昧、温泉三昧」の旅をした。往復、高速バスで、その時に2冊の本を持ち込んだ。2冊とも東京医科歯科大学名誉教授の藤田紘一郎博士の著書であった。藤田博士といえば、寄生虫学の権威で、自らサナダ虫をおなかで飼っていたことで有名な方、サナダ虫に付けた名前が「キヨミちゃん」。サナダ虫は雌雄同体であるため、男でも女でも使える「キヨミ」と付けたようである。

その、藤田博士の納得できる話の紹介を。

「休肝日をつくりましょう」と言われてるが、「休肝日は必要ありません、酒はやめないほうがよい」が博士の持論。酒をやめることのストレスで悪玉菌を増やし、腸内細菌のバランスを壊すことの方がリスクが高く、煙草も当然、同じとのこと。

腸内細菌は、病原菌を排除し、ビタミンの合成、ドーパミンやセロトニンといった「幸せ物質」を合成し脳に送る仕事をしている大事な細菌、また、免疫力の70%を腸が、30%を心がつくると博士は言っています。

酒呑みとして、「シメシメ」と思っている方は、腸内細菌と会話をしながら飲めば一層の「美酒」になるのでは。

但し、腸内環境を整えるには、それなりの努力がいります。興味のある方は、藤田博士の「腸をダメにする習慣、鍛える習慣」を、買って実践してみてください。

“角打ちにポツリポツリと穴惑い”

博多座

響 金太郎

台風が去って騙し討ちのようにめっきり冷えてきましたが、いかがお過ごしでしょうか？

僕はしっかり気温の変化にやられてしまい、グズグズやらかしながら頑張っております。風邪などひかぬようにどうぞお気を付けてください。

さて、毎度のことで恐縮ですが、12月に博多座の舞台に出演することになりました。

博多座ならではの大きなセットや廻り舞台を使い、100名近いキャストで作り上げる迫力ある舞台です。

僕もしっかりした役とセリフをいただき、それ以外でもちょこちょこ顔を出します。いつもよりお高めですが、博多座でのお芝居としてはリーズナブルな価格設定ですので、平日の公演ではありますが、お時間を割いていただき、御来場くださいますよう、お願い致します。

以下詳細です。

福岡県民文化祭参加作品・川上音二郎生誕150年記念

「川上音二郎・貞奴物語」

脚本：長谷川法世・大塚ムネト

演出：伊集院晃生

主演：大塚ムネト

日時：12月18日（水）

昼の部：10時30分開場、11時開演

夜の部：18時開場、18時30分開演

公演時間：2時間30分（休憩あり）

席種：A席¥6,000、B席¥4,500、C席¥3,000

福岡が生んだ新演劇の祖、川上音二郎とその妻、女優貞奴の波瀾万丈の人生を地元演劇人の力で上演。

オッペケペー節だけでない、川上音二郎の生き様。13歳で博多から家出して自由民権運動と出会い、貞奴とアメリカ・ヨーロッパを駆け巡って日本初の西洋型劇場を造り、シェークスピアや児童演劇を日本で初めて上演！

どんなときでもへこたれない！観終わったときには、きっと郷土の偉人音二郎さんを好きになること間違いなし！

<チケット割引のお知らせ>

今回、事前に僕から直接チケットを購入いただいた方に限り、A席・B席の料金をそれぞれ¥500割引致します。

よい席からどんどんなくなっていきます。11月いっぱいであればキャンセルもできますので、まだ確定でなくても、希望の時間・席種・枚数をご連絡いただければ、すぐにご用意致します。

僕にとって 最初で最後の博多座になると思います。ぜひとも宜しくお願い致します。

酒飲み、こだわり（5） 異国編その1

吉本 光一

どこの国を訪れても、言葉が変われば酒も変わる。酒の飲み方も変わる。それぞれの地の気候・風土に生まれ育った、その地ならではの酒がある。それを土地の人と酌み交わす機会に巡り会えば、その地の生活文化の懐に飛び込むこともできる。職を離れ、旅行社のパッケージツアーに乗って未知の地へ気軽に行けるようになった半面、地酒を通じてその地の人と触れ合う機会は、一人旅の昔のほうがずっと多いことに気がついた。短い旅の後に残った酒のエピソードを、記憶が失われないうちに拾い集めておこう、と。

アクアビット——人気が凋落した北欧風薯焼酎

ふだんの暮らしのなかで飲んだら平凡至極と思われる酒であっても、出会った場が異国となると、感興はガラリと変わり、終生忘れえない酒にもなる……だれもがパスポートを手にするいま、そんな経験をお持ちの方も多いのではないか。異国で出会った酒は、香り高い果物の酒だろうと土くさい薯の酒だろうと、その地の生活や文化、人、歴史が、香味の中に溶けこんでいる。後日、その香に触れるだけでその地の何もかもが蘇ってくる。

私の記憶の引き出しの中では、一番上に納まっているのがアクアビットだ。1971年、ヨーロッパ初訪問の旅で出会った。高度経済成長が10年間続いたわが国で、産業廃棄物や都市のゴミ対策が社会問題化してきたために、科学技術庁（当時）が廃棄物処理の先進地へ使節団を出した。これに同行して西側諸国の主要都市を2週間にわたって巡ったときのことだ。

羽田ーヨーロッパ間の直行便は当時、北極回りにルートが限られ、コペンハーゲンが玄関口だったので、私たちの旅も北欧から始まった。2日目、スウェーデンの首都ストックホルムでの夕食は北欧名物のスモーガーボード。真っ白に氷が張りついた小グラスが運ばれてきた。ウェーターがこれまた真っ白に凍った酒の瓶を分厚く折りたたんだ白布の上からつかんで注いで回る。

隣の席との合間を広くとった大きなテーブルいっぱい、肉や魚の料理、チーズなどを一品ずつ盛った大皿が次から次と運ばれて、二十皿余りが重なるような恰好で並んだ。ソーセージ、塩漬けの豚肉。魚は種類が多く、手の加え方もバラエティー豊かだ。くん製のサケ、カキ。焼きエビ、塩ゆでのザリガニ、油付けのイワシ。どれから手を付けようかと迷ってしまう。クサヤのように強烈な匂いの塩漬けニシンもある。これは北欧の特産で、現地の人や食通のお馴染みさんには大好物だが、初対面だとちょっと手を出しにくい。

とても全部は入らない。めいめいに自分の口に合った皿の料理を手元の取り皿に好きなだけ取って味わう。「これが私たちの祖先バイキング伝来のスモーガーボード料理です。どうぞ、存分に」とガイドさんは、お仕着せの料理を押しつけるのではなく、一人一人が自分が一番好きなものをその場で選択できる利点をしきりに強調した。バイキング料理の原型で、スモーガスボードともいうような。中華料理も卓上に大皿を並べるが、皿の数、バラエティーのスケールがまるで違う。

真っ白に凍った酒瓶からトローリトローリと出てくる酒は、無色透明で、シャーベットに

はなっていないが、油のよう粘っこく、甘い香がほのかに漂う。アルコール度数がめっぼう強く、60度。凍ったグラスから口にたらし込んだ瞬間に、のどの奥までカッカと燃え上がった。アクアビットとの出会い、それは強烈な印象を残した。

昔の人が「燃えるワイン（現地語でブレンヴィン）」と呼んだ、その名の通り、凍っていても口の中で火のように燃え上がるが、安い国産ウイスキーのような刺激臭はない。舌触りはまろやかで、あと口に甘味が残り、肉や魚とよく合い、食が進んだ。とりわけ相性がいいのが特産の塩漬けニシンだった。生のニシンを缶の中で発酵させたもの（シュールストレミングと呼ばれる）で「世界一臭い食べ物」といわれ初めは手を出しかねたが、アクアビットが入るとその臭みが気にならず、すいすいとのどを通るようになる。

向かいの席はと見ると、ブルーチーズやゴダチーズなど7種類ほどのチーズを山のよう盛りにつけて、“凍った酒”をまず一口、次いでビールをぐっと空け、チーズにかぶりついて悦に入っている。度数は強いがいろんな飲み方ができて、多彩な料理とよく合う。また、酒と相性のいい料理を見つけてマイウェイの食事・飲み方もできる。「スカンジナビアの国民酒といってもいい、代表的な酒です」というガイドの説明にうなずき、アクアビットとスモーガーボードとは絶妙の取り合わせに感心した。後日、東京のビヤホールで「アクアビット」と注文したら、透明なグラスに常温で注いで持ってきた。口に含むと、安物の薯焼酎のような、まるで別の酒だ。「アクアビットは北欧に限る」。それ以後、これを口にする機会はなかった。

この国を次に訪れたのは、大学に在職中の2003年。スカンジナビア半島の最南端に近いルンド市で「介護保険」の研究会が開かれ、市の介護保険運営協議会の会長を兼職してきた経験からみた実情と問題点を発表するため、これに参加した。最初の訪問から32年経っていた。

ルンドは、スウェーデンで2番目に人口が多い工業都市のマルメから電車で20分ほどの距離にある地方都市で、駅前の小さな商店街と国立ルンド大学のキャンパスが境目なしに直につながっている。四方に向かう路線バスがキャンパス内を深夜まで走り、校舎の入り口に守衛がいるでもなく、だれでも自由に出入りできる。私有車はめったに通らない、安全で、静かで、落ちついて、まるで「学園都市」の語がここのためにつくられたような市だ。

電車の鉄道は、北行きは約500kmでストックホルムへ、南行きはマルメを越し、海峡の長い橋を渡って西のデンマークの国内線と直結していて、約1時間で首都のコペンハーゲンへ行ける。パスポートや荷物に目を光らす人がいるわけでない。首都からは遠いが西欧諸国への足場がよいため、古来、学术交流が盛んに行われてきた。大学の若い女性研究者は「休日の一番の楽しみは、ロイヤル・コペンハーゲンへ出掛けてお茶を飲むこと」という。「ロイヤル・コペンハーゲン」ブランドの食器は世界中の若者の間でもてもてで、その直営店が市の中心部にあり、上のティールームが心からくつろげるしっとりした雰囲気、これまた人気がある。

私の学科の女性の助手が数年前までルンド大学の大学院に留学していた縁で、今回の研究会に2人で参加することになった。いまでも社会福祉系の教員や若い研究者に知り合いが多く、研究会が終わると、ビヤレストランや自宅での夕食に招いてくれた。

と、長らく萎んでいた期待感がムラムラと頭をもたげてきた。「どこかで国民酒のアクアビットに再会できるのでは……」。

その一方で、はて、この期待感はどこから生まれてくるのか、と疑問がわいた。最初の印象はたしかに強烈だったが、アクアビットが格別な値打ちの酒というわけではない。寒冷地ほど強い酒が好まれるとか、スカンジナビア諸国には昔から強い酒を「酔うために飲む」習慣があるとも聞くが、この地でも昔からの強い酒はアクアビットだけではなく、15世紀に歴史に登場する以前は「ウォッカ地帯」だったし、いまでも店で高級な蒸留酒といえばウォッカの右に出るものはない。

これに対しアクアビットは、もとはドイツから輸入した出来損ないのワインを蒸留しブランデーの一種としてデビューしたのだが、でんぷんを原料とするアルコール発酵技術や蒸留技術の進歩・高度化によって、300年ほどの間に2度にわたって体質転換が起きた。第一の転換でブドウ酒から穀物酒へ、第二の転換で手作りの酒から薯を原料とする大量生産の工業製品へ。こうして安い値段で大衆のだれもがいつでも買える現在の北欧風薯焼酎となった。

発酵薯を蒸留した原酒は日本のホワイトリカーに似たものだが、アルコール度数が高いから原料由来の臭みが消えてソフトな味となる。これにスパイス原料の香草などを加えて再度蒸留して出来上がる。風味付けには、キャラウェイの実（ケーキやクッキー、チーズなどにも使われる香辛料）などが使われている。

北欧の地にジャガイモの栽培を導入したのは、18世紀半ば、プロイセンと戦うオーストリアに加勢に送ったスウェーデンの軍勢だった。ドイツの北部地方は氷河に浸食されたために土地がやせてコムギが育たない。この不毛の地に農業の希望をもたらしたのはアメリカ大陸から伝来したジャガイモだった。火山灰土の鹿児島県のサツマイモと環境がよく似ている。余談になるが、第二次世界大戦中にドイツ軍がパリへ入城したとき、パリジェンヌは「カルトッフェル（ジャガイモ）」と叫んで、ドイツ戦車を迎え入れたという。この精一杯の褒め殺し文句がドイツ兵にどう伝わったか。

アクアビットは、大衆の酒、働く庶民がいつでも飲める酒という、日本の薯焼酎との共通点がある。この特徴が、私の体内の薯焼酎レセプターを刺激して、受け入れのゲートを開くのだろうか。新しいイメージを喚起する酒でもある。

ルンドに滞在した1週間、夕食のテーブルには必ずビールかワインのボトルか寄り添っていた。この国がEUに加盟して以後、生活全般が大陸化した、と言われているが、その兆候は加盟以前のこの年にすでに現れていた。期待した“凍った酒”は、ついに最後まで一度も姿を見せなかった。

一夜、助手と親しい学科主任の女性教授から自宅へ夕食に招かれた。日本からのお土産のほかに、ご馳走になるのだから、とワインを持参することにした。酒はスーパーマーケットには置いてない。国営の専売店へ行って物色すると、その品数の多いのと、輸入ワインの安いのに驚いた。アクアビットは……と探すと隅っこのたなに数銘柄が遠慮がちに積まれていた。アルコール度はどれも30度ほどで、60度の品はない。

「酒税が原価でなくアルコール度で決められるので、強い酒は買い手がつかない」と助手が聞いてきた。逆に高級ワインもテーブルワインも同じ税額だから、輸入ワインは日本

よりかなり安く買える。いまは40度のウォッカやアクアビットは14度のワインに比べ約9倍（1リットル当たり）の酒税がかかる。酒の市場を低アルコール度化へと誘導することが、大陸のワイン輸出国への配慮であると同時に国内の酒害（アルコール依存症）対策でもあるという。

帰国後、ネットで探すと、この国で60度のアクアビットはいまでも製造・輸入されていて、いつでも居ながらに手に入ることが分かった。とはいえここには相性のいい塩漬けニンジンがあるわけでもない。「北欧に限る」はついに幻と化した。だが、それを淋しがるのはよそ者ばかりで、現地で暮らす人びとには、そんな気配がみられない。時の流れとは、そうしたもののなのか。



台湾の高梁酒



若戸大橋ウォーキング大会

編集後記

☆酒瓶を氷室で凍らせて飲む北欧特産の強い酒アクァビットはついに「幻の酒」と化しましたが、この秋安行さんと訪れた台湾で、これに代わるものに出会いました。白酒の一種で高粱（こうりゃん）と小麦を原料とする高粱酒（58度が多い）です。全土の各地で造られ、銘柄も多く、香味も「台湾清香型」「金門香型」などと表示してオリジナリティを競っています。値段は香味と同様にもまちまちですが、600ml 瓶で1500円ほどで結構良いのがあります。私は金門香型が好きです。ただ、同じ銘柄でも特級酒と普通酒がありラベルがよく似ているうえ、瓶のサイズが300ml、600ml、750mlと多様で、また地域・店によって価格差があるので、よく確かめないと誤魔化されます。

☆円安の今年、輸入ビールの値上がりを抑えようと、ペットボトル入りを売り出したところ「キャップを外したときに泡が吹き出す」と評判が悪かったとか。冷えが悪いのか、キャップを外す際に力が入って瓶を揺すってしまうためか。一昨年、ボージョレー・ヌーボーのペット詰めが出ましたが、これも1年で姿を消しましたね。酒類の省資源化は難しいようです。
(ぼんぼん仙)

☆早いもので、正月の顔がちらつきはじめた。速い、はやい、時間の経つのが。これも、良い友、良い酒、良い場所に恵まれたお蔭。

☆先月の20日、若戸大橋ウオーキング大会に参加した。雨を心配していたが、天気にも恵まれ爽快であった。ここ数年は、旅行等の行事は雨にあったことがない。完全な晴れ男になったようだ。私を呼んでいただければ晴れ、間違いなし。これも今年までで、運を使い果たした気がする？さあ、酒でも呑んで厄払い。何かにつけて厄払い、酒はありがたいものである。「まあ、ゆっくり世間話をしていきませんか。お茶でなくお酒を呑みながら」。投稿をお待ちします。題材、文の長短を問いません。「酒」に縁のある内容であればということなしです。投稿は、はらぐち酒店に預けていただくか、kei2@bronze.ocn.ne.jpへ宜しくお願いします。

「はらぐち閑話」は、はらぐち酒店HP (<http://homepage1.nifty.com/haraguchi/sake/>)もしくは、戸畑はらぐち酒店で検索してくださいの「かくうちの部屋」でご覧いただけます。

次回発行は1月11日(12月27日締切り)とします。(今朝の鮭)

はらぐち酒店：北九州市戸畑区中本町4番19号

電話093-871-2150

sake-tobata@nifty.com